野禽の ばさ

能 村 研 \equiv

何もなき月

気付く。 に「二月」を詠んだ句が多いことに 先師登四郎の全句集を開くと、実

二月てふ何もなき月住みよかり 平成九年『芒種』

ってみると、句は越える。その中のいくつかを拾ざっと数えてみただけでも、二十

絵暦の二月の色のさびしけれたと日のにほふ二月の荒鋤田土と日のにほふ二月の荒鋤田土と日のにほふ二月の荒鋤田

一月は「去ぬ」、二月は「逃げる」、三月は「去る」と言われるようにこの三か月は短く感じられる。二月は日数が少ないこともあるが、農家にとっては、来るべき農繁期までの休息の時期で、なるべく休息日が長くあってほしいと思うこともあり、時間の経過が早く感じられるのだろう。二月は暦の上では立春を迎えるう。二月は「去ぬ」、二月は「逃げる」、

雲 13 雲 重 ね 冬 帝 来 ŋ け ŋ

蒲 \mathcal{O} 穂 \mathcal{O} Š < 5 む ば か ŋ 沼 は 銀

白 鳥 0 群 を 離 n L لح き 白 L

白

鳥

 \mathcal{O}

遠

吉

聞

ح

え

沼

H

和

白 鳥 0) 野 禽 0 0 ば さ 折 ŋ た た む

白 鳥 を 見 7 る る 眉 0 濃 か ŋ H n

羽 繕 Š 急 口 転 0 鵠 \mathcal{O} 頸

な P か 13 L た た か 13 白 鳥 0 頸

L

裸 木 \mathcal{O} 朴 に 守 居 を 頼 Z け ŋ

朴 _ 樹 父 母 0 樹 と L 7 年 逝 か す

要な時期でもある。
要な時期でもある。

同頭で掲げた登四郎の句、教職に 制でもあり、学校は一番忙しい時期 で何も無き月などと悠長なことは言 っていられない。教職退職後の一俳 人としての感慨として二月を捉えた 人としての感慨として二月を捉えた

二月田の水湧く場所は榛の下

昭和四十八年『幻山水』

研三